

里親に なりませんか？

子どもたちの健やかな成長のために

子どもの成長には、家庭で暮らす時間や経験が
とても大きな役割を担っています。

ところが今、さまざまな事情で自分の家族と暮らせない子どもたちがいます。

彼らを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解で

その成長をサポートする人が、「里親」です。

子どもたちの健全な成長のため、そして明るい未来のために、

あなたにもできることがあるかもしれません。

子どもたちの健やかな成長のために 里親になりませんか？



古泉智浩さん
里親歴2年

新潟県在住。漫画家。代表作は『ジバルロック』など。著書『うちの子になりなよ ある漫画家の里親入門』がある。

里親になることを ためらう理由なんて 何もないと気づいた

結婚後、長く不妊治療を続けていた古泉智浩さん夫婦が「里親制度」に関心を持ったきっかけは、血の繋がっていない子どもと楽しそうに暮らす友人の存在だったという。

「仲の良い友人親子を見るうちに、血の繋がりがだけが親子じゃない、と思うようになりました。同じ頃、里親制度や特別養子縁組を取り上げたテレビ番組を目にして、制度を利用してみないかと妻に話を切り出しました」

はじめは実子にこだわっていた奥さんも、里親制度の研修で訪れた児童養護施設で子どもたちと2日間過ごしたことで考えが変わった。

「どの子も見ず知らずの僕たちにとってもなついてくれて、切なくなるくらい可愛いんです。子どもがいる家庭を切望する僕らの目の前に家庭で暮らせる子がないのに、里親になるこ

とをためらう理由なんて何もないじゃないか、と僕も強く思いました」

2014年の冬、生後数カ月の男の子が古泉さんの家にやってきた。

「子どもが家にいるって光で照らされているようななあと思いました。その状態が今も続いている感じですね。2歳になつたうちの子は今、イヤイヤ期真っ最中。先日ママに向かって『わかつた、わかつた、わかつたよお』と、僕の口癖を完璧にコピーして言っているのが驚きました。『子どもの前でヘンな言葉遣いはやめて！』と、僕が逆に妻に叱られました(笑)」

初めての子育てに励む古泉さん夫婦を支えているのは、一緒に暮らす古泉さんのお母さんをはじめ親戚や地元の人々、そして交流を深めている里親の先輩たちだ。

「今、特別養子縁組を希望しているところですが、血の繋がりがいいことは自然に認識してほしいので、はじめからオープンにしています。それでもうちの子であることに変わりはないですから。数年後にもう一人くらい子どもを迎え入れて兄弟を作ってあげたい。それが僕の夢ですね」

支え合う仕組みが「里親制度」です

いろんな親子、 いろんな家庭を 許容できる社会に

日本中に養育里親家庭が広がることを願い、大阪を拠点に活動を展開しているNPO法人キアアセット。

「日本にはさまざまな事情から、家族と離れ、児童養護施設などで暮らす子どもが約4万6千人います。施設の方々はそんな子どもたちを支えようと奮闘されていますが、子どもが健やかで自分らしい生き方をめざせる大人に成長していくためには、やはり地域社会に根ざした本物の家庭、養育里親家庭が必要です」

と話す代表の渡邊守さん。家庭とは、経済状況や時代、政治や文化に左右される脆弱な存在だ。

「だからこそ、家庭で子どもを育てるためには地域社会と繋がる必要があります。そして、悩んだり、迷ったりしながら家庭生活を営んでいる大人の姿を目の当たりにしながら暮らすことで、子どもたちは将来自分が社会

に出て家庭を持った時にどうすべきかを経験として学ぶことができます。ごく当たり前の家庭での風景の積み重ね。それを提供することが、養育里親家庭の大きな役割なのです」

子どもたちの多様なニーズに応えるためには、養育里親家庭にも多様な性が必要だという。

「里親というと、ドラマに出てくるような立派な人をイメージする人が多いようですが、立派な大人であるよりも、私は日々成長していく子どもの変化に合わせて対応できる柔軟性の方が大切だと思っています。そして、それが子どもの育ちに活かされるように私たちのようなソーシャルワーク機関がお手伝いできることはまだまだあるはずだと考えています」

いろんな親子、いろんな家庭、いろんな生き方を許容できる多様性のある地域づくり、社会づくりがこれからの日本には必要、と力を込める。

「過去を共有していない子どもの成長を目の当たりにする喜びは里親ならではの醍醐味。『やりがいはあるけれど、しんどい』という今の里親制度を、『しんどいけれど、やりがいがある』に変えていきたいですね」



渡邊 守さん
里親支援団体／特定非営利活動法人
キアアセット 代表

北海道生まれ。日本福祉大学卒業。オーストラリアの大学院でソーシャルワークを学んだ後、2010年に里親支援に関する事業を行う特定非営利活動法人キアアセットを設立。



里親家庭を募集しています。

里親制度は、健やかな育ちの場を求める“子どものため”の制度です。

里親には迎え入れた子どもの養育費として里親手当、生活費、学校教育費、子どもの医療費などが支給されます。

里親の種類

養育里親

家族と暮らせない子どもを一定期間、自分の家庭に迎え入れて養育する里親です。

養子縁組を希望する里親

養子縁組によって、子どもの養親になることを希望する里親です。

専門里親

養育里親のうち、虐待や非行、障害などの理由により専門的な援助を必要とする子どもを養育する里親です。

親族里親

実親が死亡、行方不明などにより養育できない場合に、祖父母などの親族が子どもを養育する里親です。

里親になるまでのステップ

1 相談

里親制度について詳しくご説明いたします。里親についてご理解いただきましたら、ご家族同意の上でお申し込みください。

2 調査・研修

児童相談所の担当職員が家庭訪問し、調査を行います。その間、里親制度等に関する研修を受講していただきます。

3 審査・登録

児童福祉審議会等での審議を経て里親として認定されると、里親名簿に登録されます。

4 更新

養育里親は5年、専門里親は2年ごとに更新研修を受講していただきます。



もっと知りたい!

里親Q & A



Q.1 里親になるために資格は必要ですか?

所定の研修を受けるなど一定の要件を満たしていれば、特別な資格は必要ありません。欠かせないのは、子どもの養育に対する理解と熱意、そして子どもへの豊かな愛情です。

Q.2 対象となる子どもはどのような子どもですか?

保護者の死亡、行方不明、傷病による入院または虐待など、さまざまな事情から家族と暮らせなくなった子どもが対象となります。年齢は、原則18歳未満ですが、必要に応じて20歳になるまで対象となります。

Q.3 里親とは養子縁組のことですか?

里親には養子縁組を前提とする里親や、事情があって家庭で生活できない子どもを一定期間養育していただく養育里親などがあります。里親＝養子縁組ではありません。

Q.4 里親として子どもを迎え入れるのは、どれくらいの期間ですか?

数年間の委託から、数週間～1年以内の短期委託まで、一人ひとりの子どもたちのニーズと里親をされる方の状況を照らし合わせながらマッチングします。

Q.5 子育ての経験がなくても、里親にはなれますか?

大丈夫です。里親として子どもを迎え入れるために必要な知識などは登録前の研修で身につけることができますし、児童相談所の職員などが電話や訪問により疑問や悩みをお聞きして一緒に解決方法を考えます。さらに地域の里親会による支援や交流活動もあります。

Q.6 共働きでも里親になれますか?

子どもの養育に支障のない範囲での共働きは可能です。また、里親として迎え入れた子どもも、必要に応じて保育所や放課後児童クラブを利用することができます。

里親制度に関心を持たれた方は、お近くの児童相談所にお問い合わせください。

全国児童相談所一覧

検索